

たたら炉造りに汗

大東・大原
ホッパの会
中学生が労働奉仕



たたら炉造りのための土を集める大原中の生徒

一関市大東町のボランティア団体「ホッパの会」（勝部昌平会長）のたたら炉造りは9日、同町大原内野地区の砂鉄川たたら製鉄学習館で行われた。地元の大原中学校の生徒5人が協力し、製鉄のための炉造りに汗を流した。

同会は1999年の結成以来、地域に伝わる製鉄文化を継承しようと、地元児童と共に砂鉄の採取やたたら製鉄に取り組んでいる。例年であれば体験学習のために大東地域を訪れる日本大（神奈川県藤沢市）の学生に協力を求めるが、新型コロナウイルスの影響で中止となったため、中学生がボランティアで参加した。

同日はあいにくの雨降りとなったが、会員10人と中学生は炉に使う土をスコップで採取。わらや水と混ぜ合わせて粘土を作り、金属製の枠の中に入れ、木づち

やきねで丁寧に打ち固め重ねていった。

今回造った炉は、大原小学校の児童が9月に行うたたら製鉄で利用される。小学生の時に製鉄を体験した小野寺煌君（3年）は「炉造りに参加したのは初めてで、改めて大変な作業だということを実感できた」と話していた。